

# LGBTって身近にいるの？



国内のLGBTの人口比率は**約5.2%**

(2012年電通総研ダイバーシティラボ調べ)

**約20人に1人**はLGBTである。  
日本国民1億2711万3000人<sup>※1</sup>の内、  
**約660万4000人**はLGBTの可能性が。

# LGBTの子どもを取り巻く課題

---

# LGBTの子どもの現状

---

セクシュアリティ  
(性のあり方)



性の話、恋愛の話



アイデンティティの一部。  
進路・就職・パートナー・老後…  
ライフプランに関わる。

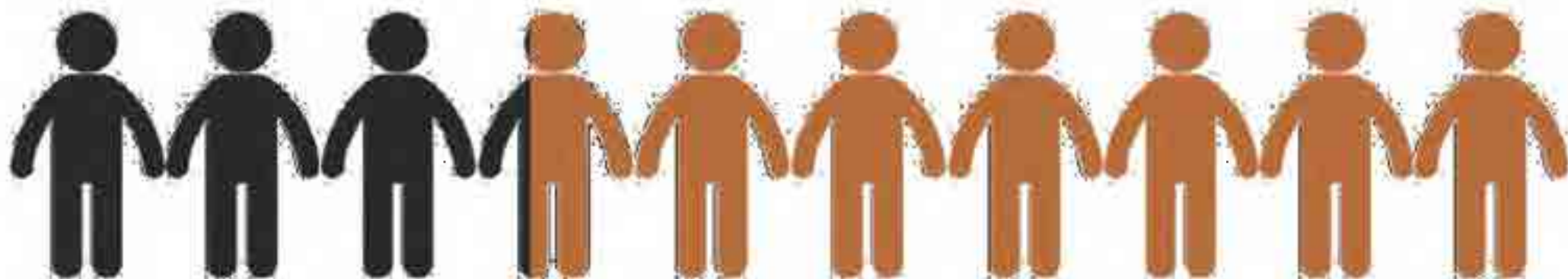
LGBTであることを否定的に捉えることは、  
自尊感情の低下につながりやすい。

# LGBTの子どもを取り巻く課題

---

【現状】いじめや暴力\*を受けたことがあるLGBT

\* 身体的暴力・言葉による暴力・性的な暴力・無視・仲間はずれのいずれか



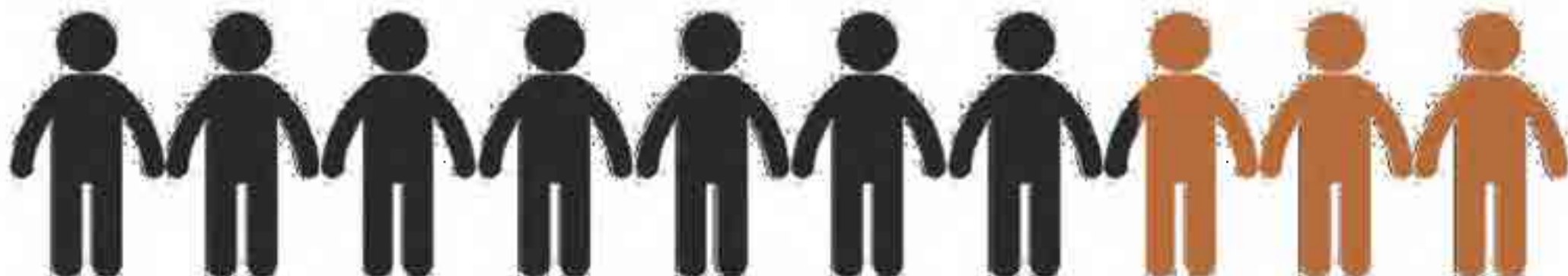
約68%



# LGBTの子どもを取り巻く課題

---

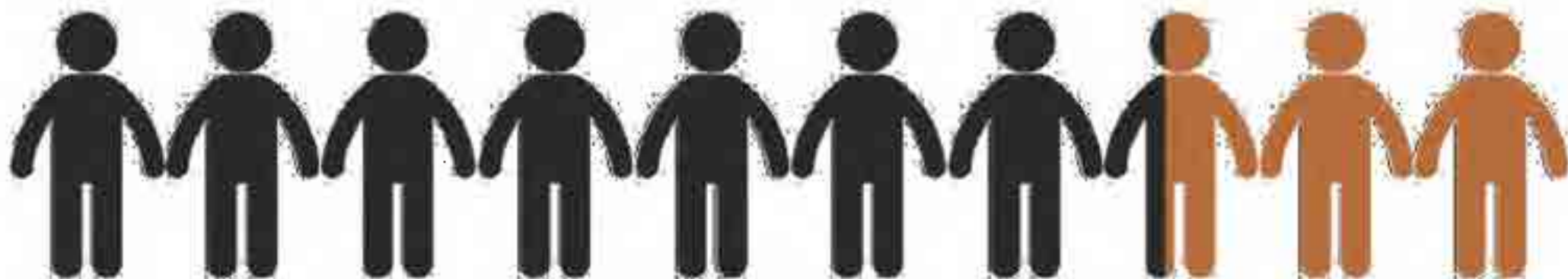
【現状】 不登校を経験したことがあるFtM・MtF



約29%

# LGBTの子どもを取り巻く課題

【現状】 自傷・自殺未遂を経験したことがあるFtM・MtF



約28%

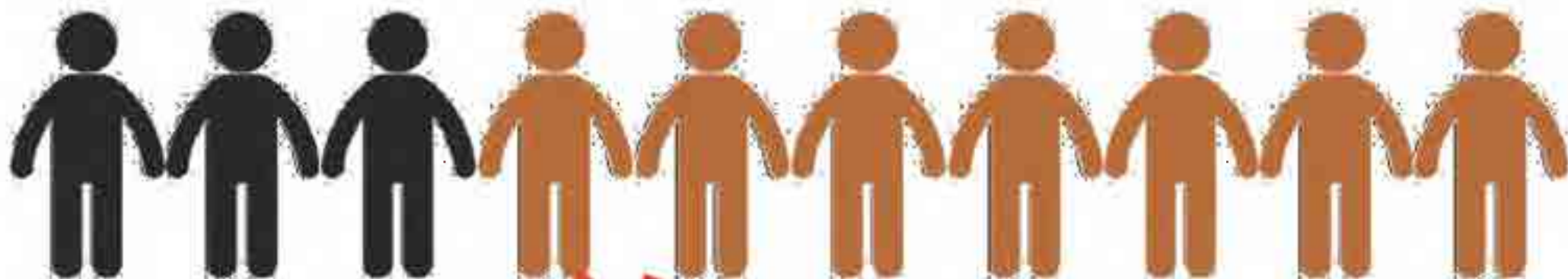
【出典】中塚幹也「学校保健における性同一性障害：学校と医療の連携」  
：日本医事新報No.4521：60-64,2010

 Re:Bit

©ReBit all rights reserved

# LGBTの子どもを取り巻く課題

【現状】 自殺念慮を抱いたことがあるFtM・MtF



約69%

自殺念慮のピークは第二次性徴期





# LGBTの子どもを取り巻く課題

LGBTの子ども・若者をハイリスク層と捉え、  
取り組みの必要性が明記されている。

## 子ども・若者ビジョン（平成22年）より

性同一性障害者や性的指向を理由として困難な状況に置かれている者等特に配慮が必要な子ども・若者に対する偏見・差別をなくし、理解を深めるための啓発活動を実施します。

## 自殺総合対策大綱（平成24年）より

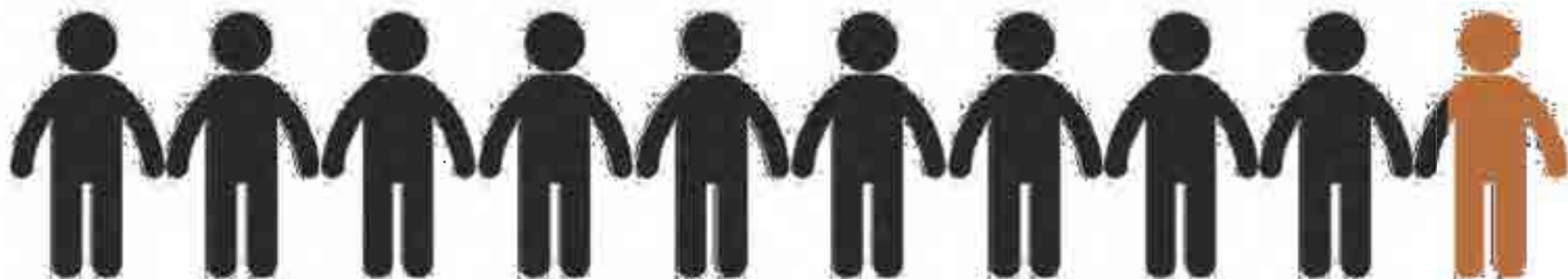
自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている  
性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある  
社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する



# 教育現場の現状

---

【現状】 約20人に1人LGBTがいることを知っている教職員

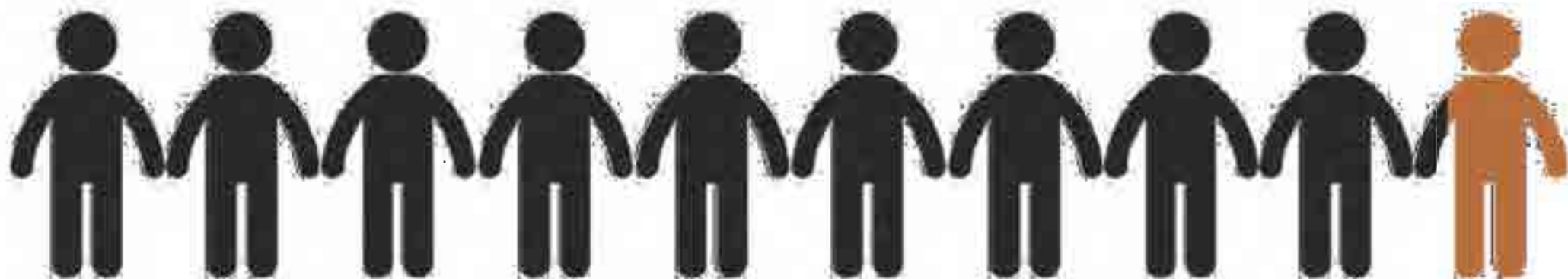


約9%

# 教育現場の現状

---

【現状】 学校教育の中でLGBTや多様な性に関して  
知る機会が有った生徒

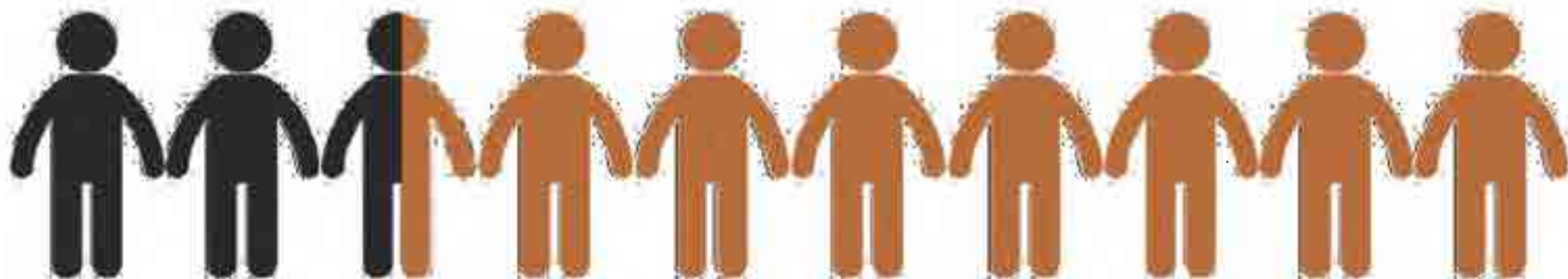


約9%

# 教育現場の現状

---

【現状】 今までにホモネタやオカマ・おとこおんな等の言葉を見聞きしたことのある生徒



約74%

# LGBTの子どもの現状

## 「よりそいホットライン」の セクシュアルマイノリティ専門ラインへの架電率

厚生労働省の委託事業でもある「よりそいホットライン」のセクシュアルマイノリティに関する相談電話には、  
年間63万5,739件の架電がある。  
受話件数で見ると10代・20代の若者からの電話が約半数を占める。


平成25年度よりそいホットライン報告書より

社会的に可視化しづらいLGBTの子ども・若者であるが、  
「見えないからいない」のではなく、  
実際には周囲から認識されていない故に困ったり、  
悩みが解決できていない。





グループワーク  
: ライフヒストリー



LGBTの子どもが  
困りやすいことって  
なんだろう？

# LGBTの子どもが困りやすいこと

①男女でわけられること

トイレ、制服、修学旅行の部屋  
風呂、部活、健康診断..etc

②LGBTがいないことが  
前提となっていること

男らしさ/女らしさの押しつけや、  
みんな異性愛者であるという前提

③正しい知識に  
アクセスできない

教職員や保護者に正しい知識を  
教えてもらえない

④身近に相談できる人が  
いない

周りの不理解などから相談できな  
いと感じたり、否定される

⑤ロールモデルが見えない

LGBTの大人がイメージできない  
ことで、将来への不安が生じる

→自尊心の低下、人間関係構築の障壁などに  
つながりやすい。

